



セミプロ精神のすすめ

県民カレッジ学長 加藤 敏久

自遊塾は、県民の誰もが講師となって講座を立ち上げることができるユニークな生涯学習の取り組みとして、全国的に注目を集めています。私も「録音を楽しもう」という講座を始めて2年が過ぎようとしています。多様化の一途をたどる県民の学習ニーズに応える有効な仕組みとして、自遊塾は今後益々その重要性が増すだろうと感じている次第です。

さて、近年、社会の進展に伴い、人々の芸術文化活動においては「プロ」と「アマ」の差がなくなってきたと言えるのではないのでしょうか。一時代前では一般には手に入りにくかった「プロ用機器」が今ではネットで手軽に購入できます。「プロ仕様」が一般消費者向け製品の歌い文句です。作品制作の道具がプロの使うものと同じであれば、あとは技術とセンスの問題です。そこでおすすめしたいのが「セミプロ精神」。アマチュアの立場に身を置きながら、作品の出来栄をプロと競い合うのです。それを通して技術とセンスを磨いていくのです。面白いではありませんか。

アマチュアの立場の最大の強みは、自分の作品を買ってもらふ必要がないことです。気の向いたときに自由に冒険的な発想を存分に試みることができるのです。かく言う私も、録音するときのマイクの設置は、プロなら絶対にやらないと言われるような立て方をしてみました。手痛い失敗はしますが、そのたびに貴重な経験を積み、センスも磨かれてきたように思います。いくつかの録音は、現在市販されているCDの音に匹敵していると、プロの方からお墨付きもいただきました。しかし、私はもっと、そのプロを超える音を創りたいと狙っているのです。

芸術創造は多様で際限がなく、生涯追究し続ける価値があります。アマチュアの立場を賣っていくことがそれを後押ししてくれるでしょう。あえて「セミプロ精神」をお勧めする所以です。



挨拶の言葉

県民教授・塾長 水須 忠

県民教授の皆様、塾生の皆様こんにちは。

今度、熊木塾長からバトンを預かった水須です。未熟者ですが、県民カレッジに対する自分の考えを一言述べたいと思います。

富山県は教育に熱心な県民性があります。私達県民カレッジの講座も部分的ですが運営に参加・参画する者は先ずは教えて手・教授としては限りなくボランティア精神を持ち、受け手・塾生は受益者負担の精神で運営に参加、参画させて頂きたい者です。私の県民カレッジへの理念は「共」の言葉ですべてを現表します。教え手・教授と習い手・塾生が共に学ぶ、「共学」であり、共に楽しむ「共楽」であり、共に成長する「共成」です。講座を受講すること・老いても学ぶことによって若さを保つ自己変革が出来れば本当の生涯教育の一環だと思えます。次に学んで一定の成果をあげたら今後は、塾生を中心にお世話になった方々にお礼・恩返しをしたいものです。具体的には地域文化への還元・地区の老人会や公民館での発表会等に参加・参画すること。若者へのサポーター、ネットで全国に講座の成果を発信すること等も素晴らしい恩返しでしょう。ご存知のごとく二四年度 五九講座が富山地区を中心に行われました。又講座を通じて教授と塾生が更に豊かな人間関係を築きましよう。やがて各講座の塾生さんが新しい講座を立ち上げるためにヘルプをしたいものです。数年後に次の方にバトンをしっかり手渡ししたく今後とも関係各位のご協力よろしく願います。最後に教授各位・塾生各位のご健勝とご多幸をお祈りして挨拶とさせていただきます。

特別企画

俳句を作る

富山を語る

県民教授 森川 敬三

平成二十四年度の新規講座として、「俳句を作る 富山を語る」を開講しました。俳句作りを通して身の回りの自然や出来事、富山のすばらしさを発見し、それを語り合おうという趣旨の講座です。

塾生の三分の二は、作句が初めてか経験の浅い方々でした。俳句を知りたい作りたい、句会に参加したい、感動や発見を話し合いたいなど、参加動機は様々です。

初めは不安だった塾生も、一人一人の個性や人生が生きた句、自分の考えや感動・発見を率直に話す発言と、半年間で大いに進境しました。



雲の峰五箇山の郷音もなし
新井貴久子

大花火しだるる闇の広さかな
伊勢 良子

黄昏や芙蓉ぽっかりあかりつけ
熊谷 信子

夕暮れに木々のまにまの糸蜻蛉
澤井ひさ子

面舵の航跡涼し船二杯
澤井 文夫

町名に城下の名残り金木犀
田島 昭子

スプレー菊色々恋も人生も
得地みさを

銘仙の形見ほどくや秋夜長
中村恵津子

健かに生きる覚悟ぞ枯芒
能作 靖雄

布勢の海に鵠鳴きわたる初み空
野島 一枝

町内の子らを走らせ消防車
富山 美苗

恐ろしや雷雨の被害届く日々
政二ひろ子

飛ぶ螢水辺の草の歌声か
村上美穂子

夏暁や路面電車の音澄みて
森沢 怜子

紅白は父の思いや年の梅
山中 狐太

内孫に赤いべべ着せ初詣
吉野フサ子



やさしい心理学講座の

「人間とは…」

前田 和子

わたしが、自然環境も、社会状況も乱れている世で、生きていく心の拠り所を、何処に求めるかで迷い、変わりたいと願ってる時、この講座に出会いました。

お釈迦様は「人間の苦しみの根源は、執着・こだわりにある」と教えられています。その言葉の意味の深さにしみじみ感じ入りました。

こだわらないことは、こんなにも心が爽やかになれるものかと実感しました。今を大切に、一日一日を楽しく穏やかに生きる智慧を学ばせていただき、感謝しております。

日々の生活の中で、実践しながら、この喜びを有縁の人々にお伝えして参りたいと願っています。

山は夢と

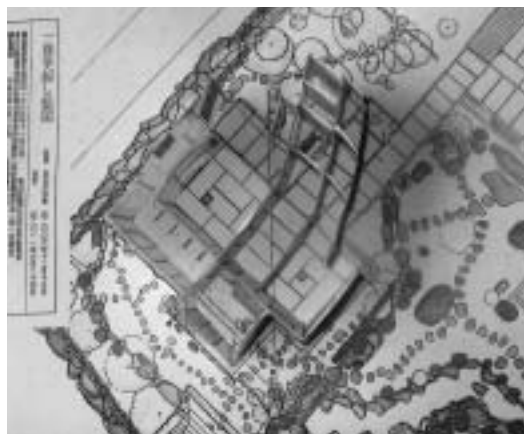
冒険とロマン

芦崎 幸子

キタダケソウに逢いたくて、平田さんに北岳登山お願いしたら「高村薫の『マークスの山』は読みましたか？ 北岳を舞台にした小説です」と言われました。雨などで登山は遅れ、小説を半分ほど読んだころ「遅咲きがあるのでは！」と期待し出掛けたのですが、花は終わり葉のみ確認して戻りました。後半の読書は、戻ってから読みました。

山の楽しみ方は千差万別ですが、北岳が印象深い登山に成った事は紛れもなく、春から講座を受講しました。

講座で『マークスの山』を詳解され、改めてキタダケソウに逢いたくなり、小説のラストシーンも見に行きたくなりました。



茶室の起し絵講座

山田 寿子

茶室という日本の小宇宙を、庭をもとりこんだ立体として、さらに小さな宇宙を創造してみようという試み。長谷川先生の細かな図面を切り抜いて、飛び出し絵本のように、折り畳み、本の形に仕上げます。利休伝来の待庵や今日庵、石州の茶室などを、何回か試作し、自分の納得のいく作品をめざします。何よりも先生の図面が出来ないことには、作業が進まなくて、もどかしい思いです。今年の二月十三日から十八日まで福光美術館で作品展を開きました。今後とも努力してまいりたいと存じます。

雲からわかる

お天気講座

橋本 節子

野山の植物に会いに出掛けるのが趣味で、毎日、天気予報とにらめっこ。

もつと天気の事知りたいと軽い気持ちで受講。

が、しかし、奥が深い!!

まず雲の種類の多さにびっくり、又その動きで雨を予測したり、虹の色の構成についてや、オーロラと太陽との関係も学び、少しは気象について理解出来始めたかな? と思ったら、講座終了!!

今は、天気を読む面白さを実感中です。

来年は、野外講座の計画も有りとの事。

楽しみにしています。

雲形の変化

温帯低気圧の周りの雲



第24回県民カレッジ学遊祭特集

講演会 (ホール)

演題

「オペラからミュージカルまで」

―西洋音楽娯楽史112年を90分で語る―

講師

音楽家 青島広志さん

共演

テノール歌手 小野 勉さん

講演というより、演奏会を聴きに来た感じで、音楽史もよくわかり幸せ気分だった。

娯楽史とタイトルにあるように、笑いを誘ったが、テンポが速く我々凡人にはついていけない時もあった。アンダンテで話してほしかった。知ってるメロディーが流れると嬉しくなった。休む暇なく、テノールで歌い続ける小野さんは大変だったろうと思った。

著書やCDの発売には、青島先生ご本人が立っておられ、大変盛り上がりつつ沢山売れていた。終了後には、先生とソリストのサインを求める列が、長く続いていた。

とても楽しく、又、機会があれば嬉しい。

県民教授 重松 秀子



ステージ発表

はつらつ弦楽アンサンブル

県民教授 長谷川弘子

講座が発足して三年、学遊祭のステージ参加も三回目となりました。音楽、楽器好き、いろいろな年代、初心者からオーケストラで腕を磨いている方まで。楽しく意見を交換しながら、曲の要所を注意し、楽曲を完成させていくのはこの上ない喜びです。今年度は七月からの短期間の練習での本番、しかし皆さんの意気込みはすばらしく、「心一つに感動のハーモニー」…。今後も皆で選んだ曲を良く理解し、美しい音楽を満喫できますように助力したいと願っております。気軽に受講して下さい。



第24回県民カレッジ学遊祭特集

展示発表

写真で綴る「絶景」富山の特等席めぐり

県民教授 松本 慎一

写真の撮り方や撮影ポイントなどの講義、絶景の現地撮影会、ただ単に撮ることだけに終わらず、各自の作品を全員で批評しながら展示作品を選び出す合評会システム、学遊祭での作品展示、反省会。

こうした講座の流れと積み重ねで着実に学習の成果を上げ、腕を磨くことができて、受講の大きな楽しめと励みになっているとのこと。

今後は、私からみなさんに、もっとつと発表の機会を作っていきたいと考えています。

自然美の転写アート

中川 佳子

ネイチャーコラーージュを中心に展示。ガラスフレームリングス、クリスタルキューブ、リボンファッションの作品を、塾生の人達が飾り付けして下さいました。



シュガークラフト講座

県民教授 三辺 咲子

「基礎」から「応用」を経て「学習の総合」に進みながら、7つの課題作品を作り、学遊祭では、それらの作品を展示しました。

学習の総合の2課題は、会場を県民会館の料理室に変えて、カップケーキやクッキーを焼き、それらにシュガークラフトの飾り付けをして仕上げる内容で、手作りのお菓子をデコレーションする実習をしました。

どの課題でも、それぞれ作り手の個性がうかがえる素敵な作品が誕生しました。



ミニ講座・体験

電動立ち乗り平行二輪車

「人間の移動形態を変える画期的な道具」

県民教授 大淵 加市

2001年12月アメリカの発明家ディーン・ケイメンにより開発された乗り物「セグウェイ (Segway Personal Transporter)」と云う。開発時のコードネームはジンジャ (Ginger) であった。2005年11月当時のブッシュ大統領が小泉首相にこれをプレゼントした。アクセル、ブレーキやハンドルもなく体の重心移動によってその動きを制御する。時速20kmで公道は走れない。キーワードは「時速6キロ」、「6km/h以下は法規上「歩行補助車」となり電動車椅子のようになり歩行者扱いとなる。」



セグウェイの実演風景

干支の絵付け体験

県民教授 古川 圭子

毎年、学遊祭では、干支の絵付け体験を楽しんでいたいています。お正月を迎えるにあたって、玄関には、お正月花と、干支飾りは、欠かせないものです。2013年の干支は、へび。かわいらしさには、ちよつと、うん、によろによるですものね。でも、だいじょうぶ。縁起物の松竹梅の絵付けに、金の粉を、たっぷり、振り掛けて、かわいいへび土鈴の出来上がりです。参加者の皆様も、力作のへびが、できあがり、にんまり。新年もいいこと、いっぱいだね。

人気講座紹介

朗読を楽しもう

県民教授 金田 一子

朗読 前から気になっていた言葉でした。県民カレッジ塾生募集の中に朗読教室を見つけ、即応募しました。

実際受けてみるとたいへんむずかしく、ひとつの言葉も声の強弱、読む速度等で随分言葉の表情が変わります。

先生のアドバイスで朗読はその人の個性で語るのがいいと言われるが、どのように朗読するのがいいのかまったく感じがつかめず、又物語の言葉にこめられた情景をどのように言葉にのせると伝わるのだろうかと思いがらの教室でした。再度挑戦したら解決できるのだろうか？今回、朗読にふれる事ができる楽しい時間でした。

活けて癒されよう

―庭先の花や草、木々で―

県民教授 能沢 一代

私達は庭先や畑などに咲いている花、時には十把ひとからげで雑草といわれている草などを活けています。

塾生さんが月一回の講座の時には手にかかえきれない程を家から持って来て下さいます。まるで花屋さんみたいになります。まずは「この花、初めて見たわ。なんて名前？」という会話から。花器はなんでもOK。欠けてしまったけど想い出のある食器でも。また塾生さんからは教えてもらうことも多く、花の名前、育て方そして活け方まで。同じ花や草でも「その人らしさ」に活けられて毎回、感心・感動です。花に癒され、そして活けることで再び深く癒されます。

ふるさと文学めぐり

(入門編)

県民教授 澤田 隆彰

昨年は楽しい一年でした。単に本が好きというだけで無謀にも「素人が大風呂敷を広げる」ように始めた講座でしたが、塾生の方々に盛り上げてもらい九回の講座もあつという間に終わつた感じでした。

「高志の国文学館」開館翌日に全員で写した記念写真や、立山天狗平の宿泊講座、九月一日八尾風の盆当日福井県勝山市での「風の盆恋歌」朗読会に参加のため八尾・勝山・八尾と強行スケジュールで移動したことも楽しい思い出ばかりです。

二十五年度も引き続き開講します。今年は「万葉集全二十巻朗読の会」参加チャレンジなども企画します。



教室風景



製作アンプ発表会

真空管アンプ製作教室を開催

県民教授 水上 宗久

オーディオ製作に興味を持つ仲間を輪を広める目的で真空管アンプ製作教室を開催致しました。アンプ製作の初心者十七名が受講し、真空管アンプの原理から使用部品による音質の特徴、部品の取り付け、配線・ハンダ付け、試験・調整まで受講者は熱心に製作ポイントの指導を受けながら、途中リタイアの一名を除き全員が好みのアンプを組み立てました。受講生各自がキットやパーツを会場に持ち込んで製作し最終回の教室では、受講者の作品発表・試聴会を開催し、一人ひとりの受講生は丹精込めて製作したアンプが奏でる音に大満足をして教室を終了致しました。

新講座紹介

先人の言葉

宮田 敬三

初めてお仲間入りをします。十年あまり前から、肝に銘じようと思った言葉に出会ったと、パソコンに入れてためてきました。やがて、それを読んで元気が出てくるのがわかり、それによってアイデアが湧き、自分もどんどん前に歩いていけるようになりました。

今回、その五十人を超える人々の言葉を紹介します。決して堅苦しいだけの内容ではなく、テレビから消えた島田紳助、番組「ここがヘンだよ日本人」で超どもり早口だったソマホン(覚えていますか?)、顔面死球を受け、ヘッドギアでバッターボックスに立った阪急のマニエル、意外ですが富山警察署裏でのうどん屋「鶴喜」も登場します。
ご期待ください。

木曾義仲と越中の倶利伽羅山合戦

村澤 清人

寿永二年五月木曾義仲公は、天皇をないがしろにし、庶民から略奪する、平清盛を征伐しようと挙兵し、信濃から京へ登るため北陸道を攻め登りました。途中の合戦で平家軍を次々と討ち破り越中に入り、当地武将らが次々加勢。特に倶利伽羅山合戦では独特な戦術で、十万人の敵を五万人で戦勝しました。平家物語や源平盛衰記にはこの義仲と義経が、主人公の如く重要な場面で必ず登場します。

朝日将軍の称号を貰った義仲公は、緑放地が千葉県から広島県まであり、特に越中に多く、よく地名に残されています。

この偉大な義仲公の倶利伽羅合戦場は、富山県の観光資源であり、皆様と共に読み、見学したいと思います。

マジックの歴史と魅力を学び実践しよう

坂口 知明

パーティーや宴会で盛り上がるのは、余暇や隠し芸、アツといわせたいとっておきの芸、マジックは子供から大人まで沢山の方に楽しんでもらえます。手先を使ったり、お客さんの反応を見て演技をするので、脳の活性に伴い、姿勢も正しくなり、健康にはとてもよいといわれています。

初めての方にもわかりやすく教えます。初心者大歓迎。この講座で楽しく学びながら沢山の驚きと笑顔を提供出来ればと思っています。

『コミュニケーション力』アップで、生き生きライフ

武野 修治

この度、この講座を開いたします武野と申します。『一生勉強、一生青春』これは、私の好きな松下幸之助氏の言葉です。

コミュニケーション力アップを目指し、一緒に青春しませんか。

以前、私は人と話すことが苦手で、どちらかと言えば、人と接することを避けていました。しかし、今は、いろいろな人と話すことをとても楽しく感じます。コミュニケーション力アップのために本を読んだり、研修会に参加したりしたことで、コミュニケーションにはコツがあるのだと感じました。そのコツを皆さんにお伝えできればと思い、この講座を考えました。もちろん、皆さんからも多くのことを教えて頂きたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

笑うことは素晴らしい

大谷矢辰則

「ははは」、笑いでストレス解消。笑いは、誰でもすぐに心をプラス志向にできる魔法です。簡単な笑いの体操を通して、心の底から笑いましょ。互いの目と目を合わせて、ユーモアを交えて「ははは」会ったばかりの人とも笑でコミュニケーション。笑いと一緒に軽く身体も動かすので、10分程で汗が吹き出てきます。一見ばかばかしいと思う様な体操ですが、みるみる楽しくなりますよ。体操終了後には、心身ともに良い変化がありますよ。面白い事もないので笑えるのかと、よく聞かれます。大丈夫です。人は理由なく笑えるようにできています。笑いの効果は思っている以上に多いです。特に心が前向きになりますよ。難しく考えず、一緒に笑いませんか。



交流会報告

県民教授 坂田 陽子

それは、7月、砺波での交流会から始まりました。暑さ厳しき折とはいえ、密度の高い交流会となりました。なんて楽しいんだろう。こんな時間をもっとあれば、もっと県民教授同士の繋がりがあればと、誰もが思いました。即、その場で、日時、場所が決まり、予約もOK。ほぼ四か月先の交流会予定が決まりました。そして、その日、11月15日。高志の国文学館内レストランは、華やいていました。笑顔が輝いていました。互いに講座の情報交換をしたりと、話にも花が咲きました。人との絆、それが、わたしたちにとっての宝であることを知る一夜となりました。



事務局からのお知らせ

65の講座がいつばい

あなたも好奇心と探求心で参加してみませんか

心と体の健康	22講座
自然環境	4講座
歴史・文学	12講座
情報映像	3講座
ものづくり	13講座
音楽	7講座
くらし・食	2講座
ふるさと学習	2講座

県民教授リレーコメント

「そして、学び、教えるへ」
藤の籠から、壁面へ移行

県民教授 熊木 保子

藤を手掛けて三十四年。手芸から手工芸へ進み、工芸の世界へ迷い込み、まるで樹海の様な所で学びました。

学びを試したくなり、国内外の公募展に出品を致しました。結果、数々の受賞で、益々自信が付き誰かに伝えたくなり、県民教授に応募致しました。今年で十四年目になります。

塾生の中には、籠でないと嫌だと言われる方もおられました。世界で只一つの、オリジナル作品が完成しニッコリされた時は、疲労が吹っ飛ば瞬間です。

又、塾生の皆様から、エネルギーを頂ける事も教授冥利に尽きます。これ程有り難い事は有りません。

編集後記

「井戸端通信」と言う名前は自遊塾広報紙の名称としてマツチしていない、名前を変更できないか？」広報部会中そんな意見があり、バックナンバーをダウンロードした。一号発行は平成九年七月一日。塾生編集者四名が講座体験受講・講座間交流ボウリング大会など、年四回も発行している。まさにワイワイガヤガヤ「井戸端通信」で、タイムマシンに乗った心地。これを機会に討論を重ねたい。(平田)

平成24年度
自遊塾県民教授会役員

塾長	水 須 忠
副塾長	斎 藤 允
副塾長	柳 原 正 年
広報	
部長	平 田 清 志
副部長	古 川 圭 子
交流・研修	
部長	大 塚 裕 一
副部長	並 木 恵 美
出前・庶務	
部長	遊 道 直 美
副部長	檜 谷 靖 城